

令和の里海づくりモデル事業

取組	田辺湾の特産物であるヒロメ（コンブ目チガイソ科に属する大型の海藻）に関する取組を中心とした里海づくりの規模拡大。
概要	和歌山県田辺湾の奥部に位置する跡之浦と内之浦において、自然共生サイトの認定を目指した自然資源の調査と保全活動、ブルーカーボンの取り組み、そしてそれらに関するエコツアーの開発と試行を計画。
背景	
地域資源	【自然】 - 吉野熊野国立公園（烏ノ巣半島の自然景観） - 湾と自然豊かな低山からなる自然環境 - 沿岸の黒潮の影響を受けた多種多様な海洋生物 【海産物・食】 - 田辺湾の春の特産物であるヒロメとヒロメを活用した独自の食文化（ヒロメのしゃぶしゃぶ、ひとはめ寿司等） - チヌ、アオリイカ、イシダイ等の豊富な海の幸 【歴史・文化・町並み】 - 南方熊楠らが保護運動を行い、日本の自然保護運動のシンボルとなった神島（国の天然記念物） 【アクティビティ】 - 南紀白浜に隣接し、大都市から身近な観光地（ダイビング、釣り、海水浴、温泉等）
地域課題	- 漁業者の高齢化と担い手不足 - 地域の魅力向上 - ヒロメの養殖種苗の供給体制の整備 - ヒロメの養殖用種苗の生育不良・食害 - ヒロメは収穫時期が限られ、大半が生で流通するため市場が限られている

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

【保全】

- ヒロメ養殖の拡大に向けて収穫用の種苗生産を実施。また、Jブルークレジット取得を目的とした残置用の種苗生産を実施。
- 自然共生サイト申請を目指し、自然資源の状況を把握するための調査を実施。

【活用】

- 里海を活かしたエコツアーとして自然観察会、漁業体験、保全活動体験を試行し、どのようなルールやガイドスが必要であるかを検討。

【好循環形成・促進】

- 藻場造成の取組に興味を示す民間企業との連携を検討。
- エコツアーに参加した人々に、海藻や藻場の保全に関心を持ってもらうことで、藻場保全活動の拡大とヒロメの市場拡大に繋げる。
- 継続した取組と情報発信により地域の魅力を高め、関係人口を増加させ、漁業者の高齢化や担い手不足を補い、継続可能な里海を実現。



作成：新庄漁業協同組合

令和の里海づくりモデル事業での取組

取組	田辺湾の特産物であるヒロメ（コンブ目チガイソ科に属する大型の海藻）に関する取組を中心とした里海づくりの規模拡大。
主な実施内容	【令和4(2022)年度】 ・ヒロメの種苗生産と養殖試験 ・ヒロメの商品開発 ・体験ツアー（ヒロメ魚の見学、カヤックでの収穫体験等）の開発 ・好循環形成の方向性等の検討、など 【令和5(2023)年度】 ・ヒロメ養殖の拡大とブルーカーボン活用に向けた検討 ・自然共生サイト申請に向けた生物相調査等の実施 ・漁業体験や藻場の保全活動体験等によるエコツアー開発 ・里海のPR活動としてシンポジウム等の開催 ・好循環形成ビジョン検討、など
成果	・4区画でヒロメ養殖を実施。ヒロメの炭素分析や民間企業と藻場造成の取組みの連携を検討（クレジットや寄付金等）。 ・R6年度前期分（春季）の自然共生サイト申請に必要な調査を完了。「自然共生サイトの申請に向けた専門家派遣の試行事業」を活用し、申請区域について検討中。 ・エコツアーとして、自然観察会、漁業体験、藻場の保全体験等を実施、里海のPR活動として、シンポジウムや里海講座（干潟、サンゴ、海藻）を実施し、ヒロメの認知度やエコツアーの収益向上を図り、地域活性化の仕組みを形成。
今後の課題・展望	・担い手や活動資金面での課題があるが、新たな連携体制（博物館、大学、JR西日本、アドベンチャーワールド、ハーヴェストクラブ等）の構築に向け随時調整し、今後の展開と繋げていくことが今後の課題。 ・昨年度に残置させた養殖のヒロメは量が少なかったため、今年度のJブルークレジット申請は見送りとなったが、養殖に限らず、ヒジキやアマモなども合わせた取り組みとして、民間企業との連携やブルーカーボンの活用方法を検討。



ヒロメの種苗生産



エコツアーの開発



（上：漁業体験、下：自然観察会）



エコツアーの開発
（保全活動体験）



里海活動のPR
（シンポジウム）